



各 位

2025年3月19日

会 社 名 ソレイジア・ファーマ株式会社
代表者名 代表取締役社長 荒井好裕
(コード番号：4597 東証グロース)
問合せ先 取締役 CFO 管理本部長 宮下敏雄
電 話 03-5843-8046

ダルビアスの固形がん細胞株に対する研究結果のお知らせ

第98回「日本薬理学会年会」(2025年3月17日(月)～3月19日(水)千葉県 幕張メッセ開催)において、当社販売製品ダルビアス(一般名：ダリナパルシン、効能・効果：再発又は難治性の末梢性T細胞リンパ腫)の固形がん細胞株に対する研究結果がポスター発表されました。当該研究は、城西大学薬学部袁教授らのグループおよび当社で実施しております。

本研究では、ダリナパルシンが神経膠芽腫細胞株U-87および乳がん細胞株MCF-7に対して細胞傷害効果を発揮することが明らかになりました。また、両細胞において、アポトーシス/ネクローシス^{※1}およびG2/M期の細胞周期停止^{※2}の誘導がダリナパルシンの細胞傷害効果に関与していることが実証されました。ダリナパルシンの細胞毒性は、さまざまな固形腫瘍由来のさまざまな細胞株で報告されていることを踏まえると、今回の研究結果は、ダリナパルシンの適応症を固形腫瘍患者の治療に拡大する可能性をさらに裏付けるものと考えられました。

当社はダルビアスの全世界権利を有しており、日本・南米(コロンビア、ペルーでは承認申請済)において販売権導出を通じ事業化を図っております。その他地域においても、販売パートナーを擁立して進める計画です。現在、ダルビアスの承認効能効果である再発又は難治性の末梢性T細胞リンパ腫に続く、他のがん種への適応追加を目指した各種の非臨床試験を進めております。今回の研究結果は他のがん種や未だ有効な治療薬がないがん種への適応拡大の可能性を評価するものであり、当社は引き続きダルビアスの可能性を高める施策を推進してまいります。

以上

※1：アポトーシス (apoptosis) /ネクローシス (necrosis)

アポトーシスとネクローシスは、どちらも細胞死の一形態です。アポトーシスは、生理的機構としての細胞死(例えば、老化や活性化誘導による細胞死など)であり、この過程では核クロマチンの濃縮、DNAの断片化、核の断片化、細胞の萎縮が生じますが、細胞膜は比較的保たれていることが特徴です。一方、ネクローシスは、物理的・化学的な損傷によって引き起こされる偶発的な細胞死であり、この過程では細胞の構造が崩壊します。

※2：G2/M期の細胞周期停止

G2/M期の細胞周期停止とは、細胞周期のG2期(DNAの複製が行われるS期と有糸分裂を行うM期に移行する前の段階の間の休止期)からM期への移行が停滞する現象を指します。